

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内

洛友会

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

075-753-5270

www.rakuyukai.org

会社人生を振り返って

四国支部長 山地 幸司（昭48年卒）



四国支部長の山地です。支部長として今年で6年目を迎えています。この度会報に投稿機会を与えていただき光栄に存じます。

四国支部は会員数約90名と手頃な大きさで各会員との距離も比較的近く、毎年の総会には約30名が出席、その他秋の研修旅行やゴルフ愛好会なども実施しておりません。残念ながら昨年度は新型コロナウイルスの影響で実質的な活動は出来ず、今年度も引き続き活動の自粛が続くと思われます。

私は昭和44年に京都大学に入学

田舎から出て来た私は、討論会で大演説をする同年代の学生に感心したりしたもの共感できず、結局ノンポリでした。その後は自転車で見物に専念しました。京都は東西・南北各5・6kmでフラットなため自転車で観光するには格好の地でした。

研究室は上之園研究室を選びました。電気材料や通信はなんとなく性に合わず回路システム理論・電力システム工学をやってみようと思いました。当初は大学院に行こうと思っていたのですが、夏休み帰省すると親が体調を崩して動けなくなっており就職するしかないと思いました。幸い上之園先生のお力を得て、入社試験が終わっていた四国電力に役員面接のみで入社する事が出来ました。

ここから代表取締役副社長で終る42年間の四国電力での会社生活が始まりました。電力会社で何をしたら良いか上之園先生に相談したところ「給電だよ」と言われたので、「給電志望です」と言ったところ、水力・変電・給電部門に配属されました。

20代は、系統運用部で給電の仕事をした。中央給電指令所では、翌日の全系の発電計画の作成と送電系統の潮流安定度計算などをした。給電課では3カ年の需給運用計画を担当した。即ち予備力を考

慮した火力・原子力の定検計画、年間の火力燃料費を最小化する貯水池式水力発電計画、火力の最終済発電計画を作成する。これを燃料調達計画に連携する。これが電力会社が持つ最大のノウハウである。

30代は、送変電部で送変電設備の増強計画を担当する。将来の需要見通しや電源開発計画を元に送電線の過負荷や系統安定度をチェックし、何時・何処で・どのような規模の送変電設備が必要かを工事面や用地状況を加味しながら立案する。次に企画部で長期の電源開発計画を副長として担当する。約20年スパンで需要・燃料情勢・立地地点を想定し、各種シミュレーションを繰り返しながらローリングする。最後に支店の発電変電課長として設備の工事・運営を指揮する。停電事故が起きると徹夜で復旧作業に当たると共に原因究明・対策立案など現場を駆けずりまわった。お陰で現場の仕事の実態や苦労、仕事の流れを知る事が出来た。

40代の6年間は紀伊水道直流通系設備の新技术の研究開発・設計・発注などに奔走する。徳島県阿南市の橋湾に四国・電源開発の280万kW石炭火力共同開発に合せ、その送電方式の1つとして1991年に関西電力より、徳島

県阿南変換所から紀伊水道を海底ケーブルで横断し和歌山県紀北変換所約100kmを直流で連系する紀伊水道直流通系設備を建設する計画が提案された。当初直流電圧＋25万V、送電容量140万kW（最終50万V、280万kW）世界最大規模のものであった。四国電力は阿南変換所の建設・運転・保守を担当、私は主査として全体を統括した。此の仕様を満たすためには多くの新技术の開発が必要であった。機器面では高電圧大容量のサイリスタバルブ、50万V直流ガス絶縁開閉装置、50万V大地据置型交流フィルタなど、制御面では交流事故時でも直流を運転継続する技術、交流系の電力動揺を抑制するパワーモジュレーション、タービン軸ねじれ抑制技術などである。これらに対応するため電力3社、メーカー4社で毎週関東・関西・四国で打ち合わせを行った。又機器仕様を決めるため電力3社で打ち合わせを行った。これらの中で重要なものは、内容に疑問・異議があれば会議の中で即座に申し立てをすることである。そうしないとドンドン仕様が決まってしまう。「組織の関電、経験の電発、人材の四国」と言われ、四電の中で多くの有能な人材が育った。2000年に設備は運開した。

の問題であるが、EUやアメリカに出席し意見を述べたが、枝野大

だ」と言われた。「きょういく」



課題3. 会報原稿の依頼

議題 2. 推薦会員について

推薦会員

- ・比留間 真悟 助教
電気工学専攻
(北海道大学 令和3年博)
- ・白井 僚 助教
通信情報システム専攻
(大阪大学 令和3年博)

洛友会本部総会報告

本部総会は、恒例であれば令和3年度は東京支部総会と同時開催となりますが、新型コロナウイルスに伴い東京支部総会とは別開催として、本部役員会に引き続き6月20日午前にオンライン(Zoom開催)として実施し、急なご連絡にもかかわらず50名のご出席をいただきました。

議事前報告として、本年5月23日の前会長長尾真先生ご逝去と長尾先生をしのぶ会のご案内を行い、松本会長ご発声により黙祷が捧げられました。

引き続き、松本会長の開会挨拶の後、和田事務局長の司会で令和2年度事業報告と決算、令和3年度事業計画と予算案、役員の変更がそれぞれ了承されました。また令和元年度より開始された「学年クラス会・支部活動費等の補助」(洛友会ホームページに掲載、<http://www.rakuyukai.org/>)

blog/2019/07/18) について再度紹介し、各支部や会員有志からの積極のご提案をお願いしました。

続いて、洛友会本部報告として、電気系教室技術情報誌Cue、電気系教室懇話会の計画などが紹介され、京都大学創立125周年記念事業への引き続きのご支援依頼をいたしました。

引き続き、電気系教室の現況紹介として、和田事務局長より昨年度総会以降のご報告として、専攻長の交代と教員異動、電気工学専攻の引原隆士教授の副学長・情報戦略担当の併任、洛友会会員の受賞として下記をご紹介します。

- ・福島 邦彦先生 (S33 電子卒)
米国フランクリン協会Bower賞を受賞 (2021/04)
- ・本島 修先生 (S51 電二博士)
フランス・レジオン・ドヌール勲章シユヴァリエを受章 (2021/04)

次に報告事項として、「洛友会会報」への各支部長からのご投稿につき、従来は東京支部・関西支部以外の7支部からのご投稿が年1回(4月号のみ)で、「7年に1回」は少なく、「ご執筆の無い支部長」が出るのも好ましくないことから、1月号にも「7支部長」からのご投稿をいただき支部長の着任順も考慮してご執筆依頼することとし、一般寄稿(支部担当)

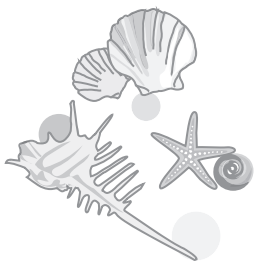
については支部により「既に執筆済みの方が多くなり依頼困難」との声もあり、役員会・幹事会で引き続き審議することが報告されました。

引き続き各支部長より支部活動のご報告をいただきました。コロナ禍の中でのオンライン支部総会の開催やオンラインのパネルディスカッションによる異業種交流取り組みなど、積極的な活動をご紹介いただき、オンラインの良さも取り込みつつ今後の活性化につながる良い情報交換となりました。懐かしいお顔の間でのZoomブレイクアウトルームを試行したご挨拶などもあり、コロナ禍収束を祈りつつ、無事終了いたしました。

役員の変更

令和3年度役員は次の通りです。

顧問	昭41	荒木 光彦(再)
会長	昭40	松本 紘(再)
副会長	昭56	和田 修己 (新・教室)
幹事	昭54	伊藤 八大(新)
	昭55	三浦 良隆(新)
	昭51	佐藤 亨 (再・幹事長)
	昭50	北野 正雄(新)
	昭57	野田 進(新)



- 昭59 萩原 朋道
(新・事務局長)
- 平1 黒橋 禎夫
(再・学科長)
- 平16 佐藤 高史(再)
佐藤 壽良
(新・工学部同窓会連絡会会長)

(備考)..
昨年10月に京都大学工学部同窓会連絡会の会長にご就任いただいた竹原壽良様(昭41)には、役職付として、幹事団にお入りいただく。

- 支部長
- 北海道 平1 木元 伸一(新)
- 東北 昭48 井上 茂(再)
- 東京 昭55 尾上 誠蔵(新)
- 北陸 平1 笠原 禎也(再)
- 中部 昭55 酒井 和憲(再)
- 関西 昭57 福田 隆(新)
- 四国 昭48 山地 幸司(再)
- 中国 昭58 前田 耕一(再)
- 九州 昭54 能見 和司(再)

会員寄稿

北海道大学訪問のススメ

岩下 武史
(平5年卒・北海道支部)



私は、2014年4月に北海道大学に着任し、約7年間札幌で暮らしてきました。そこで、私の職場でもある北海道大学(以下、北大)についてご紹介させて頂きたいと思います。

北大の長所のひとつが、そのアクセスの良さです。JRの札幌駅から歩いて数分のところに正門があり、このような大きなターミナル駅の近くに広大なキャンパスを構えているのは北大だけではないでしょうか?是非、観光で札幌に来られる方にも立ち寄ってもらい

たいです。北大のキャンパスは、南北におよそ2.4 km、東西に約1 kmあります。近衛通りから御蔭通りを測ってみますと1.3 kmとなりましたので、比べてみるとその広さを実感していただけるのではないのでしょうか。このような広大なキャンパスに高層の建物は少なく、農場を含めて開放感にあふれています。しかし、その広さ故、建物間の移動には時間を要します。札幌駅近くの正門から私が講義を行う情報科学院の建物まで、歩いて20分程かかります。さらに、冬になると歩道が凍結するため、30分以上かかると思っています。講義の開始に遅刻することになります。出張等で北大に来られる場合には、用務先の建物を事前に確認し、特にキャンパスの西側に目的地が位置する場合には、札幌駅や地下鉄の駅から離れることとなりますので、十分な余裕をもつてこれらをお勧めします。

さて、キャンパスの紹介に戻ります。正門からまっすぐキャンパス内を進むと、中央ローンとよばれる芝生の緑地があります。緑地の中には小川が流れ、桜の木があり、学生や職員、近くに住んでいる方々の憩いの場となっています。夏の時期に歩きながら思索を巡らせば、よい発想がうかんでく

るのではと思われる場所です。中央ローンの右手には、百年記念会館があり、その中に北大マルシェというレストランがあります。こちらでは、大変おいしいランチを頂くことができます。北大に来られる方は是非お試しください。中央ローンをさらに進むと、クラーク博士の像があります。こちらは胸像となっています。(よく知られているクラーク博士の像は札幌ドーム近くの羊ヶ丘にあります)。博士の像の右手には古川記念講堂があります。こちらは明治時代に建てられた建物で、大変趣のある洋館となっており、SNSで「映える」場所となっています。

古川記念講堂から右に折れると、南北に延びる1.2 kmの長い道路があり、これが北大のメインストリートです。こちらのメインストリートは東京五輪のマラソンコースとして予定されていますが、普段は多くの方々のジョギングコースとなっています。メインストリートの西側には、エルムの森と呼ぶ広い緑地があります。緑地内にある旧札幌農学校昆虫学及養蚕学教室の標本室は札幌軟石の外壁を持ち、こちらも独特の風情を醸し出しています。メインストリートを北に進むと、北大の総合博物館があります。入館料は無料ですので、機会があればご覧いた

だきたい施設です。北大の歴史に関する展示や、古生物や鉱物に関する標本はとても見応えがあり、特にニッポノサウルスの復元骨格展示は迫力があります。大学内の博物館ということで、多少雑然とした雰囲気の一部屋もありますが、研究が現在も進行中であることを感じさせます。博物館の北側の道を西に曲がって進むと、有名なポプラ並木があります。ポプラ並木の周辺にはクロユリの群生地があり、初夏にはその花を楽しむことができます。近くには農場も広がり、観光にはお勧めのスポットです。

博物館からメインストリートを北に進むと大野池という池があります。池の周りにはベンチがあり、読書をしている学生をよく見かけます。春には水芭蕉、夏には睡蓮の花を楽しむことができます。また、大野池の側にはサクシユコト二川という川が流れています。この川は北大の正門近くから、そのキャンパスを縦断し、北へ抜け、他の川と合流して、最終的には石狩湾につながります。サクシユコト二川の横には小さな歩道があり、私の最もお気に入りの場所です。川には5月になると、オシドリがやってきます。6月には雛が生まれ、毎年、その愛らしい姿をみせてくれます。ちょうど、私の

居室がある情報基盤センターと講義を行う情報科学院の間に位置しており、四季折々に川べりの変化を楽しんでいます。

大野池からさらに北に進むと、体育館があり、北18条通りをこえ、北キャンパスに至ります。北キャンパスには札幌農学校第2農場の建物が保全され、とても美しい景観となっています。ここまですると札幌駅よりも地下鉄の北18条駅の方が近くなりますが、足をのぼす価値のある場所だと思えます。

いかがでしょうか。北大の魅力が少しは伝わりましたでしょうか。それでは、最後に北大で自身が行っていることを記して、この記事の終わりといたします。私は情報基盤センターにおいて、教授として北大のスーパーコンピュータシステムの設計、運用に携わり、高性能計算(High Performance Computing)という分野で研究をしています。高性能計算という分野に馴染みのない方が多いかもしれませんが、簡単にいうと、計算機の性能を様々なシミュレーションやプログラムにおいて最大限に活用するための方法論に関する研究です。数値計算の解法(特に並列計算手法)、プログラミングの方法論やツールの開発、高性能な計算ライブラリ

の開発などが含まれます。情報処理学会には、HPC研究会という登録会員数が約500名の研究会があり、現在、私が主査を務めております。学生との関わりという点では、工学部情報エレクトロニクス学科、大学院情報科学院の学生を対象に講義、実験、卒論・修論の研究指導を行っています。研究室には博士課程の学生も在籍しており、助教の先生ともどもその指導にあたっています。私の研究分野は、様々な応用研究の支えとなる要素があり、これまでも民間企業を含めて、多くの共同研究を行ってきました。直近では北大シミュレーションの高性能化に取り組み、当該のシミュレーションコードのContributorとしてWEB上に名前をあげて頂きました。私の研究にご興味のある方は、北大の豊かな自然を楽しむがてら、研究室を訪問していただければと思います。札幌の皆様のお越しをお待ちしております。



社会人チームで活動を

続ける理由

宮本 光曜

(平25年卒 関西支部)



フットサルというスポーツをご存知でしょうか。一言でいうと、ミニサッカーです(こういう言い方を嫌う人もいるのであまり言いたくはありませんが、ミニサッカーをイメージしてお読みいただいて結構です)。フットサルの語源は、諸説ありますが、スペイン語で室内を表す「サロン」と、「フットボール」の組み合わせから来ています。その名の通り、体育館など室内でできるサッカーです。もちろん、屋外コートもあります。スーパールの屋上にもあります。サッカーとの違いを簡単に申し上げますと、コートサイズが小さいこと、人数が5対5であること、交代を自由にできることです(他にもファールカウントがあるなど様々なルールの違いがあります)。

向のチームです。つまり、社会人リーグに登録して活動しているということですが、ここで、フットサルの国内リーグについて述べます。現在、国内のフットサルリーグの頂点にあるのがFリーグと呼ばれるものです。日本サッカー協会の傘下にある日本フットサル連盟が主催しています。ちなみに、日本サッカー協会が主催しているプロリーグがJリーグですので、Fリーグがフットサルのトップリーグであることは容易に想像できると思います。Fリーグ以外はアマチュアリーグになりますが、そのトップリーグを各地域のフットサル連盟が主催しています(例えば、関西フットサル連盟が主催する関西リーグなどがあります)。そして、各都道府県のフットサル連盟が主催する都道府県リーグが一番下にあります。

た。ちなみに、FC ARIは今は京都市のフットサル部として活動しています(後輩たちの素晴らしい努力で体育会になりました)。今のチームにはサークル時代の先輩に誘われて入団しました。当時、京都府の3部リーグに所属しておりました。チーム構成は社会人と学生が半々程度でした。入団した年はメンバーも充実しており、入団して1年で2部昇格を決め、勢いがありました。修士1回生が終わる頃、チームの半分を占める学生が私と後輩以外、就職に伴い全員卒業しました。社会人は5名程度、学生も私を含め3名程度で、戦力は大幅ダウンでした。そんな状況で私がチームの代表として始動しましたが、案の定練習試合や公式戦でまったく勝てなくなりました。チームからはたくさんの不満が出ました。その不満に對して、私は言い訳をしていました。しかしながら、その言い訳は更なる不満を生み出しました。チームの状況を改善するためにはただ一つ「勝つこと」でした。どんなプロセスを辿ろうとも、結果を出すことが重要でした。

した。散々考えた結果、上手い選手を入れることと、戦術をシンプルにすることでした。この考え方に至った理由は、短期間で状況を一変させたかったからです。既存選手を育てることや難しい戦術をやることは時間がかかります(その上、社会人チームの活動時間や回数は非常に限られています)。結果が出る前に、チームは負け続け、最悪の雰囲気になり、やりたいたことが何もできなくなっていました。

話をそれてしまいましたが、勝つために先述した考えに基づいて行動を開始しました。しかしながら、中々結果が伴いませんでした。結果が出ないまま修士2回生が終わり、私は関西電力に就職しました。関西電力に就職した理由は様々ありますが、その1つにこのチームで代表をやり続けたいという想いがありました。新入社員研修で4か月の離脱がありました(研修のメインではないと思いますが、(研修のメインではないと思われませんが)筋トレで同僚が悲鳴をあげている中、私はフットサルに活かせる、非常に前向きでした。4か月の研修が終わり、無事に京都の事業所に配属された後は、仕事とフットサルの両立を図りました。正直、平日の夜にフットサルをした次の日の仕事ではパフォーマンスが落ちていたと思います。

と思いますし、これからそのような経験は数える程しかない気がしています。

長々と自慢話を書いてしまいましたが、実は頑張っているのは後輩たちです。私も頑張っています。入社後、15kgも太ってしまいました。そんな後輩たちも今年はいません。また結果を出すために頑張る時が来ています。身体が動く限り、社会人チームでこれからも活動してまいります。

本島修氏が レジオン・ドヌール勳章 シュヴァリエを受章



本島修氏(中部大学理事・未来エネルギー研究協会会長・太平洋工業株式会社社外取締役、昭和51年3月京都大学大学院工学研究科博士課程電気工学第二専攻単位取得退学)が令和3年4月13日にフランス政府よりレジオン・ドヌール勳章シュヴァリエ(L'ordre national de la légion d'honneur)に叙せられ、フランス大使館公邸にて叙勲式が行われました。

レジオン・ドヌール勳章は、1802年にナポレオン・ボナパルトにより制定されたフランスの最高勳章です。「シュヴァリエ」(Chevalier)は騎士、勳爵士を意味します。フランス国民のみならず外国人にも授与され、外国の元首、首相、政府関係者、外交官、文化・科学・産業・商業・創作活動などの分野における功労者に授与されます。これまで、日本人では、古くは横山大観、そして現代では安藤忠雄氏、池田理代子氏、小澤征爾氏、高田賢三氏、広中平祐氏、向井千秋氏、毛利衛氏らが受章されています。

本島氏は、第2代国際核融合エネルギー研究開発機構(ITER)機構長を務められ、在任中、ITER施設の建設の初期段階を指揮し、機器・施設の設計段階の終了後、建設のスケジュールを設定、プロジェクトに参加する国・地域で機器製作を始動させるとともに、フランス原子力安全機関(ASN)から建設許可を取得しました。平成27年3月に退任の際にはITER名誉機構長の名称が付与されました。また、平成23年9月にフランス・プロバンス大学の名誉博士号を授与されています。

叙勲式では、フィリップ・セトン駐日フランス大使が本島氏の経

歴・業績、特に、フランスで取り組んできたITER機構長としての仕事を紹介され、本島氏が任務を遂行するために発揮した高い科学的・技術的知見、人間性、統率力に改めて触れました。本島氏は、「私の人生に於ける最高の榮譽であり、家内のかおるともども心から湧き出る喜びを感じております。」と挨拶し、「フランスと日本がこれからも手をたずさえてfusion発電所の建設に向かっていただくことを強く望みます。」と述べました。

フランス大使館がウェブサイトに受章を伝える記事を掲載しましたので参考のために添付いたします。

日本語版

<https://jp.ambfrance.org/article16754>

フランス語版

<https://jp.ambfrance.org/Remise-de-la-Legion-d-honneur-au-Professeur-Osamu-Motojima-ancien-directeur-general-d-ITER>

アメリカのフランク協会の パウアー賞を受賞された 福島邦彦さんとの運命的な 出会い

橋本 道哉

(昭和33年卒)

昭和33年に電子工学科を卒業された福島邦彦さんがアメリカのフランクリン協会のパウアー賞を受賞されました。この受賞は日本人では3人目だそうです。心からお祝いを申し上げます。

彼との出会いは、私が京都大学を受験に行った時に先輩の下宿でお世話になりましたが、入学試験の前日、私が一人で昼食をしていた時に隣の席で受験生らしい人が一人で食事をしていました。これが福島さんとの運命的な出会いです。

彼が隣の家に泊まっていたようですが、隣の家の大家さんが同じ電気工学科の受験生を預かっており、試験場が同じようなので先輩と一緒に連れて行くよう福島さんを連れて挨拶に見えました。その時昼食をしていた人だと分かりました。その年の電気工学科の受験生が多く6倍でした。その時先輩が二人揃って合格する確率は1/36だと言っていました。驚かれ彼が30000人位の受験生の中でトップで合格して入学

式で代表を務めました。

彼は非常に真面目でよく勉強して優等生でしたが、決してガリ勉ではなく、麻雀もやっていました。が、賭け麻雀はやりませんでした。

必修科目である保健体育の試験に落ちて再受験していました。彼も人間的なところがあることが分かり、親近感が一層増しました。

彼は研究が非常に好きで、退職してから、つい最近まで自費で毎年国際学会に出席して研究発表を行っていました。

出会いが運命的なので、同級生の中でも一番長く懇意にさせてもらっています。

長年の研究が実り、今回の受賞は私も非常にうれしいです。おめでとうございます。

彼は拙宅の近くに住んでおり、定期的に同級生3人で懇談しています。現在はコロナのためメールやZOOMで連絡を取り合っています。

コロナの流行が終わり、仲間で集まって祝杯を上げたいです。

支部だより

関西支部総会報告

令和3年5月22日(土)、関西支部総会が23名の参加を得て、Web会議ツール「Zoom」を使用したオンライン方式にて開催されました。

支部総会は、市橋総務幹事の司会のもと則竹支部長のご挨拶で始まり、伊藤会計幹事から令和2年度行事報告ならびに決算報告があり、また令和3年度行事計画および予算編成ならびに令和3年度関西支部役員改選について審議され、満場一致で承認されました。令和3年度の新役員は、

支部長 福田 隆(昭和57年卒)
副支部長 武知秀行(昭和57年卒)
総務幹事 藤岡直人(平成3年卒)
会計幹事 梯 靖弘(平成9年卒)の各氏です。

支部総会に引き続いて、洛友会事務局長の和田先生より電気系教室の現況などをご説明いただきました。

例年であれば、会場にて恒例の講演会、懇親会を開催するところですが、今回は関西地区の緊急事態宣言下ということもあり、オンラインで総会のみ開催いたしました。来年度は平常の方法で開

催できることを祈念しております。

会計幹事 伊藤 薫(平21年卒) 記

北陸支部総会報告

令和3年5月22日(土) 昨年より続くコロナ禍で、令和3年度の北陸支部総会はZoomによりリモートで開催しました。本部からは、和田修己先生に出席頂き、北陸支部からは6名が出席しました。

総会の冒頭、笠原支部長より、昨年度の書面総会で支部長に就任したものの、長引くコロナ禍で、顔合わせも対面では難しい状況が続いているため、リモート開催とした、これから北陸支部を盛り上げていきたい旨の挨拶がありました。続いて、和田先生より本部・電気系教室の近況として、入学式や卒業式の実施など、コロナ禍における授業の実施など、コロナ禍における電気系教室の対応について紹介頂きました。その中でもオンラインでの回路演習については、PCやUSB機器等を活用して実施している様子を動画で紹介頂き、実施の工夫や苦勞、学生の取り組み状況について質疑がありました。引き続き、幹事より支部の近況報告、決算報告、役員改選案について説明があり、満場一致で承

認されました。その後、出席者全員の自己紹介を含めた近況報告が行われ、最後に各自が準備した飲み物を手に、来年度こそは対面での開催を祈念して、笠原支部長の発声で乾杯し、総会は終了しました。

今回の総会は、車の中からの出席だったり、幼児の姿が画面に見え隠れしたりなど、各出席者がリモートならではの状況を楽しめるものとなりました。また、コロナ禍におけるリモート会議事情に關しても活発に意見が交わされました。

次回の北陸支部総会は、例年どおり来年6月ごろに、福井市内で開催を予定しています。日程等詳細については、支部幹事より改めてご案内致しますので、多くの会員の皆さまのご出席をお願い申し上げます。

朝倉 茂(平12年卒) 記

改選された支部役員

顧問 西村尚和(昭23)

中島恭一(昭40)

松本純也(昭44)

葛原正明(昭54)

笠原禎也(平元)

久和進(昭47)

金森関治(昭40)

柴田明(昭40院)

西念勉(昭46)

幹事 中田和男(昭63)

石丸哲也(平元)

(新) 森 成人(平15)



同窓会だより

Zoomによる電気系学科卒業50周年記念同期会の開催

私たち昭和46年3月に電気系3学科の学部を卒業した有志8名(稲員裕三 宇治則孝 川田義広 小澤秀司 成松洋 原川竹氏 古川賢三 吉田進)が幹事となり声掛けをして卒業50周年を記念したZoomによる同期会を令和3

年3月21日(日)に開催しました。本来であれば京都か東京等に集まって懐かしい同期生とドリンク片手に楽しく語らえる会を開催したかったのですが、コロナ禍の状況にあり止む無くZoomによる開催となりました。

Zoomによる開催と言うことで、幹事の中にもZoomによる会合が初めてと言う人もいる中、数回の準備会合を重ね何とかZoom操作にも慣れ同期会の開催に漕ぎつける事ができました。

同期会当日は最初に電気電子工学科長 黒橋禎夫教授から電気系教室の最近の状況についてお話を伺いました。吉田キャンパスも50年前に比べて変わっていました。見覚えのある建物や場所も残っており在学当時を懐かしく思い出しました。またコロナ禍にあつてオンラインでの授業・実験や試験について先生方がご苦勞や工夫をされている様子など興味深く聞かせて頂きました。続いて出席者(31名)全員が順番に近況を報告しました。年相応の病氣や健康に関する話題も多かったのですが、旅行、楽器や音楽、ゴルフ、LINEによる孫との語らい、園芸など多岐に渡る楽しい話題も披露されました。中には小説家になった人、カブトムシの飼育を通じて昆虫文化を子供たちに伝える

活動を行っている人や自然の中で
の活動を通じて青少年に感動を与
えるべく社会貢献に励んでいる人
等もいました。その後はZoom
のブレイクアウト機能を使い、6
個のグループに分かれ会話を楽し
みました。3時間の予定を30分
オーバーし18時半に散会になりま
したが、50年ぶりに会った人もあ
り最初は顔を見ただけでは思い出
せない人もあったのですが時間が
経つにつれ昔に戻ったようで、楽
しい時間を過ごす事ができまし
た。



私たちが在学時代はこのように
遠隔地に離れている人たちが一堂
に会って会合を開けるなど考えら

れなかったのですが、今日の技術
の進歩とコロナ禍がもたらした社
会の変化をこの同期会を通じて感
じる事が出来た一時でした。

コロナ禍が去り安心して集まれ
る時がくれば、PCの画面越しで
はない会を企画して、より多くの
同期生が集まれる機会を是非持ち
たいと幹事団では考えています。

昭和46年電気系学科卒業生有志

洛友32会64周年クラス会

昭和32年卒業の私たちは、卒業
60周年記念会の時、これを通過点
と捉え二年毎のホップ、ステップ、
ジャンプで66周年を祝う計画を立
てました。今回はその第二步のス
テップに当たります。

おりしもコロナ禍の只中、各地
から京都へ集まって来る環境では
ありません。とは言えステップ抜
きではジャンプができない。この
難問を解決するために、下記のよ
うに昨今流行のリモート(在宅)
クラス会を開催することとしまし
た。

64周年クラス会開催要領

開催日 令和3年4月吉日

場所 各自の自宅

形式 リモート・オン・ペーパー

参加した全員の近況集を
傍に紙上懇談、家呑み家
喰い

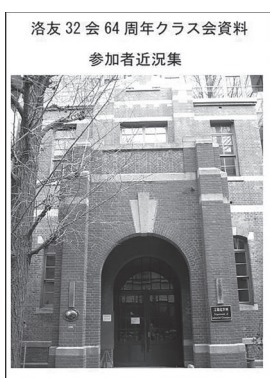
この開催趣旨に賛同頂いた参加
者の皆様から、近況報告に近影、
できれば家族共を添えて提出して
いただきました。

集まったのは近況とは言え、元
気あり、悲しみあり、稀有な体験
あり、所信あり、研究報告あり、提
案あります。22名が参加して誠に
多彩な近況集が出来上がりました。

足腰を痛めたり体調不全で外出
を控えている人が増えて、クラス
会への参加者は減少していました
が、今回の企画では好評で参加者
急増でした。このようにしてコロ
ナ禍のなかで、64周年クラス会を
開催することが出来ました。

二年後には66周年へジャンプし
ます。

西台 惇 記



長尾 真先生(昭34年卒)ご逝去

本学名誉教授、本会前会長
の長尾真先生におかれまして
は、病氣ご療養中のところ、
去る令和3年5月23日に逝去
されました。謹んでご冥福を
お祈りいたします。ご葬儀は
近親者のみにて執り行われま
した。ご遺族より香典や供花
は辞退したいとのことです。
なお、長尾先生をしのぶ会
(オンライン)を7月18日
(日) 14:00~16:00に開催
致します(YouTubeで
配信)。詳細は洛友会・学科
のホームページをご覧ください。

訂正・追加

洛友会会報第272号P.3「教
員の異動」の「昇任」の日付が間
違っておりました。また、「転出」
が1名抜けておりました。申し訳
ございません。次の通り、訂正・
追加いたします。

昇任

(令和2年7月1日付)

・電気工学専攻
細江 陽平 講師(自動制御工学)

転出

(令和3年3月31日付)

・通信情報システム専攻
塩見 準 助教

(大規模集積回路) 大阪大学

訃報

昭21	日下部悦二	3	3	11
昭25	牧野 英夫	18	7	6
昭25	柴田 賀郎	2	2	24
昭28	小森 幹男	3	4	18
昭29	西内 敏	3	2	8
昭29	間瀬 光朗	3	4	28
昭31	津田 宏	3	2	24
昭32	山本 巖	3	5	9
昭33	江塚 昭	3	4	16
昭34	長尾 真	3	5	23
昭37	水野 昇	1	6	23
昭38	佐々木興亜	1		
昭51	飼田 真一	26	4	

以上の方々がご逝去なさいました。
謹んで哀悼の意を表します。

